

立ち向かおう格差・貧困

労働者の力盛り上げよう釜ヶ崎

ふせごう世界大戦

まもろう平和

軍事費倍増増税反対

2024年5月1日



多様性の尊重される社会の実現
人権無視の入管政策あらためよ

第55回釜ヶ崎民衆メーデー

集合8時30分

先着9時15分

三角公園→

センター→

新世界通天閣

第55回釜ヶ崎民衆メーデー宣言(案)

今日で55年、いろいろな運動を重ねて大きな変化の中に釜ヶ崎があります。日雇い労働でその日の糧をつないできた仲間の「生」の記録が歴史となる。声を上げて主張しないといけないことがまだまだある。今日のメーデーに想いをよせよう。

釜ヶ崎の労働者は昔から暴動という形で手配師や警察などへの怒りを示してきました。その中からひどい労働条件や手配師の暴力に抵抗する継続的な取り組みを行うグループや労働組合がうまれました。さらには行政に掛け合っアブレ手当(日雇雇用保険)や日雇健康保険といった福祉を不十分なながらも整備させてきました。ですが、コンテナ化による港湾労働の減少・建設産業の合理化、加えてバブルの崩壊による不景気、さらに携帯電話やインターネットが普及して簡単に求人ができるようになり釜ヶ崎における日雇い求人は80年代から比べて10分の一以下になってしまい、労働者の立場は弱くなり労働条件は悪くなって、そのなかで多くの人が野宿に追いやられました。野宿も行政が厳しく規制する中で今は生活保護者が釜ヶ崎の住民の多数を占めています。

それでも日雇労働者や野宿者もいまだおり、東南アジアを始めいろいろな国の人々が集い労働者や住民の姿も目立つようになり釜ヶ崎は立場の違う下層の人々の集う街であり続けています。

その中で2012年から大阪市は単身男性のまちである釜ヶ崎を対象に子育て世代の流入を目的として「西成特区構想」を打ち出し、釜ヶ崎の住民をより税金の払える層に入れ替えていこうとしています。そのためにあいりん総合センターの建て替えを進め、2019年には建て替え案がまだ決まっていけないにもかかわらずセンターの閉鎖を強行しました。そして2年もたつてから新しいセンターを元の敷地の南半分を立て、北半分には「にぎわい福利」施設を作るといふ方針を決めました。「にぎわい福利」施設の具体案についてはいまだ決まっていますが、大阪市は民間企業に開発から運営まで任せる方針を示しています。

そのため大阪府はセンターの周辺に残っている野宿者に対して裁判による追い出しをかけておりそのため最高裁の判決がせまっています。

状況はとても厳しいですが、集う場所がなければ抗議も生活防衛の闘いも起きづらくなり行政にとって管理・抑圧がしやすくなる。時には揉めたりしながらも立場の違う貧困や差別や生きづらさを抱えた人が場所を共有しているということが今まで以上に大事になっています。

今世界は「暴力の渴望」「弱いものを力で押しつける」「動きが加速して「世界大戦への連鎖」がひろがっています。しか

し「覇権を求め」「金もつけのための戦争」に動員されお互い殺しあうというのは最悪でしかありません。平和を求める民衆の声を絶やさず諦めず抵抗し続けるしかありません。頑張りましょう